vinetur

カスティーリャ・ラ・マンチャ州、2027年VINATÏ助成の募集を開始 ワイン投資支援を2029年まで延長

改正規則によりワインツーリズム事業も助成対象となり、ワイナリーのマーケティング投資支援が拡大する

2026年11月9日（月）



カスティーリャ・ラ・マンチャ州政府は月曜日、VINATÏ助成の新たな募集を開始したと発表した。現行の事業期間を超えて制度を継続するとともに、公的支援の対象となるワイン業界のマーケティング投資の範囲を広げることが狙いだ。

州農業・畜産・農村開発省は、改正内容を11月9日月曜日付のカスティーリャ・ラ・マンチャ州官報に掲載した。州政府によると、今回の改正は、スペインの共通農業政策（CAP）戦略計画におけるワイン部門の介入措置の一環として、ワイン加工施設、ワイン関連インフラ、販売促進手段への

有形・無形投資に対するVINATÏ助成の交付・管理規則を定めたOrder 48/2023を変更するものだ。

主な変更点は、2027年の新たな公募を設けたことだ。この募集で採択された事業は、2028年度と2029年度に実施でき、制度の実質的な適用期間が次の助成期間まで延長される。

州政府は、Royal Decree 610/2026による変更に州の規則を適合させるとともに、2028年から適用される欧州の枠組みの下で助成を継続するため、規則の改正が必要だったと説明した。

同省によると、2027年募集の申請は11月10日火曜日から2027年1月25日まで受け付ける。改正では、申請の提出、承認済み事業の変更、助成金の実績報告と支払い手続きに関する期限も変更された。また、制度に関連する一部の資金調達規定も調整された。

もう一つの大きな変更は、ワインツーリズムを通じた販売促進が助成対象活動に加わったことだ。州政府によると、これによりワイン製品の紹介、展示、小売販売に関わる一定の投資が助成対象となる。この追加を反映し、規則の関連付属書も改定された。

今回の措置により、これまでワイン事業者の生産・販売体制への投資支援を中心としてきた制度の対象範囲が広がる。ワインツーリズムを助成対象に加えることで、加工能力やインフラだけでなく、消費者との直接的な接点や現地販売にも支援を結び付けることになる。

この変更は、規則の文言を超えて飲料業界にも影響を及ぼす可能性がある。カスティーリャ・ラ・マンチャ州はスペイン有数のワイン産地であり、投資支援の継続によって、ワイナリーは設備、施設、販売チャネルの改善を長期的な視点で計画しやすくなるだろう。ワインツーリズム関連の支出が助成対象に加われば、訪問客の誘致や直販の拡大に向けた取り組みに資金を充てる新たな手段となり、地域のワイン事業者の販売促進を後押しする可能性もある。

州政府は月曜日に公表した発表で助成総額を明らかにしなかったが、2028年を前に規則が変わるなか、支援の空白を避けるための継続措置として新たな募集を位置付けた。ワイナリーなどワイン業界の事業者には、1月の締め切りまで数週間の申請準備期間があるほか、後年度に実施する事業について早い段階で見通しを立てられる利点がある。

VINATÏの枠組みは有形・無形の双方の投資を対象としており、物理的な設備だけでなく、ワイン事業に関わるその他の経営ツールも支援対象となり得る。今回の改正を通じて州政府は、助成を継続させると同時に、生産、観光、直販を組み合わせた新たな販売モデルも反映させる方針を示している。

今回の発表は、独立した政治的公約ではなく正式な規則改正を通じて行われたため、生産者は申請を計画するうえで、より明確な法的根拠を得られる。事業拡大や販売体制の改善を検討する企業にとって、当面の重要な日程は申請受付が始まる11月10日火曜日と、申請期限の2027年1月25日だ。